

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライこどもケア発達支援教室（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもさんのことを十分に理解し、特性等に応じた専門性のある支援を行っていること。	ミーティングでのお子さんそれぞれの理解や特性についての共通理解を図るため、事例検討の時間を作っている。また、そこからどのような支援が有効かについてもそれぞれの専門性から意見を出し合い、支援の質の向上を図っている。	日本感覚統合学会で開催される研修等に参加し知識を深め実践に応用していけるようにしたい。また、他事業所での療育についても見学できるようにしてさらなる充実を図ってきたい。
2	家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されており、適切に対応できている。	子育てサポート支援や家族相談支援の申し入れがあった際の体制を整えており、適切に対応している。公式LINEを活用しいつでも申し込みができるようにしている。	生活の中での困り感や就学前、行事前の不安定さについてさらに細やかに対応できるよう、声掛けをしたり事業所新聞でお伝えしたりして、利用しやすい環境にしていきたい。
3	活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	療育目標を念頭に置きながらお子さんが楽しめるように様々な遊び方を提供できるようにしている。	その日のコンディションに応じて感覚ニーズや覚醒状態が異なることもあるので、様々な状態を想定することや対応する力をそれぞれの職員が持てるように事業所内での研修を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所で行っている避難訓練等が行われていることが周知されていない。	療育についての情報を伝えることに重きを置きすぎており、避難訓練等の開催の事実を情報として伝えることができていなかった。	事業所内新聞等で定期的に訓練を行っていることを伝えていくようにする。
2	保護者向けのイベントは開催しているが、きょうだい向けのイベント開催等のきょうだいへの支援はできていない。	イベント内容に関しては療育業務に支障がない規模での開催をしており、きょうだい児に向けた内容を作り上げることはできていない。	イベントの規模拡大を図っていけるよう、計画を立てていきたい。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や地域の他の子どもと活動する機会は持っていない。	個別療育を行っていることもあり、療育時間内での交流は環境要因として難しいと思われる。	イベントとしての開催で実現していけるようにしたい。